

(別添1)

令和5年度老人保健健康増進等事業

**特別養護老人ホームの配置医師と協力医療機関の連携体制や  
役割分担に関する調査研究事業**

株式会社日本能率協会総合研究所

配置医師と協力医療機関との連携や役割分担に関するヒアリング、配置医師の入所者に対する診療内容の詳細調査等をもとに、入所者の医療ニーズに適切に対応するための配置医師と協力医療機関の連携体制や役割分担の在り方について検討を行った。

(事業概要)

1 アドバイザリーボード及びワーキング・グループの設置

アドバイザリーボードでは、入所者の医療ニーズに適切に対応するための配置医師と協力医療機関の連携体制や役割分担の在り方の検討に向けて、職能団体や学識経験者、事業者から構成されるメンバーで設置し、本事業の遂行に当たって必要な事項の検討を全2回実施した。

ワーキング・グループでは、特養の現場からの知見等をいただくため、特養の施設長、配置医師、特養の看護職員、特養のレセプトデータを扱う事務職員から構成されるメンバーで設置し、全3回実施した。

2. 先行研究等の再考察

特養（配置医師を含む）と協力医療機関の連携体制の課題を整理するため、「令和4年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）特別養護老人ホームと医療機関の協力体制に関する調査研究事業報告書」等の先行研究の再考察を行った。

3. 配置医師の診療内容の詳細調査

先行研究から、配置医師の勤務状況や特養において担っている役割の実態が明らかとなった。しかし、特養の配置医師が入所者に対して行っている診療行為の詳細はまだ明らかにされていない。

この調査では、特養の配置医師のレセプトデータを収集し、特養における配置医師が実施している診療内容の実態を明らかにするとともに、「特養で請求できる診療報酬の過誤請求」、「血液検査に係る診療報酬の未請求」について考察を行った。

4. ヒアリング調査の実施

配置医師のバックアップ体制、特養と協力医療機関との連携等を把握するため、ヒアリング調査を実施した。ヒアリング調査は、先行調査と追加調査の2回行い、合計16施設を対象として実施した。

調査結果から、配置医師のバックアップ体制の整備に向けてのアプローチ、特養と協力医療機関における連携体制の整備に向けての課題と方策等について整理を行った。